

日本の美しい文化

お彼岸



お彼岸は春と秋の2回あり、毎年「春分の日」と「秋分の日」を中日として、前後3日間を合わせた7日間のことをさします。この期間に仏さまの供養をすることで極楽浄土へ行くことができると考えられています。7日間のうち、中日（春分の日&秋分の日）がご先祖様に感謝する日、その前後3日間は、人が生きていく上で良いことと悪いことをきちんと判断し、正しい行いができるようになるための6つの行いを1日にひとつずつ行うとされています。

6つの行い「六波羅蜜」とは…

煩惱と迷いの世界である「此岸（しがん）：私たちが生きている世界」から、「六波羅蜜（ろくはらみつ）」の修行を行うことで、煩惱から解放された悟りの世界である「彼岸（ひがん）：仏の世界」へと到達できるのです。

<六波羅蜜>

1. 布施：他人への施しをする（分け与える）
2. 自戒：戒めを守り、反省すること（規律を守る）
3. 忍耐：不平不満を言わず耐え忍ぶこと（怒りをすてる）
4. 精進：精進努力すること
5. 禅定：心を安定させること
6. 智慧：真実を見る智慧を働かせること



お彼岸には「悟り」をひらけるよう仏道修行の期間という意味合いも兼ねて、普段仏道修行をしていない人達も彼岸の期間中は、西の太陽に祈りを捧げ煩惱を払っていたようです。

現在でも彼岸会や法要を行う寺院は多く檀家同士で集まり先祖を供養しお墓参りします。

実はお彼岸は日本独特の文化だそうです！！

「彼岸」そのものは仏教の教えですが、「お彼岸」は日本でのみ行われ、正式名称は「彼岸会（ひがんえ）」と言います。

春分の日は「自然をたたえ、生物をいつくしむ」、秋分の日は「祖先をうやまい、なくなった人々をしのぶ」という意味をもち、昔から先祖崇拝や豊作に花と共に感謝の気持ちを捧げてきました。

ちなみに、春はぼたもち（ポタンの花が咲くことから）秋はおはぎ（秋の七草のハギから）呼び方が違います。四季の変化がある日本ならではの文化ですね！！



春彼岸は植物が美しく咲き乱れ、生命の息吹を感じます。
花と共に今この瞬間に感謝しながら、
ご先祖様を忍び、故人と向き合ってみてはいかがでしょうか。

大田花き 品質カイゼン室

